

授業改善への取組：より実践的で質の高い学びを目指して

本校では、変化の激しい社会を生き抜く力を養うため、ICTの活用や外部機関との連携を強化し、日々の授業改善に取り組んでいます。主な取組を4つの柱でご紹介します。

1 ICT・AIを活用した「主体的・対話的」な学び

一人ひとりの創造性を引き出し、これからの情報社会に不可欠なリテラシーを磨いています。

○探究的なICT活用

個人やグループでの調べ学習に加え、スライド資料の作成や、デザインツール（Canva等）によるAI活用など、アウトプットを重視した学習を行っています。

○情報活用能力とモラル

表計算ソフト（Excel等）の高度な操作スキル習得はもちろん、情報モラル教育を徹底し、正しく技術を使いこなす姿勢を育てます。

○基礎学力の定着

学習アプリ「スタディサプリ」を導入。限られた時間の中で効率的に基礎学力の向上を図り、検定試験や進路実現をサポートしています。

2 商業科目の専門性を高める「きめ細やかな指導」

実務に直結する専門科目を、より深く、確実に理解するための工夫を凝らしています。

○習熟度別学習・TT（チーム・ティーチング）：

簿記や財務会計、情報処理やプログラミング、英語コミュニケーションIなどの主要科目では、複数の教員が指導にあたるTTや、理解度に応じた少人数グループ学習を取り入れ、一人ひとりの「わからない」を取り残しません。

○教員同士の授業改善

年2回の相互授業観察を実施。教員間でも指導法の研究・共有を絶えず行っています。

3 社会とつながる「探究・地域連携」

教室の中だけでは学べない、生きた社会を体験する場を設けています。

○外部人材の活用

企業の方や専門家をお招きした講演会を通じ、最新の業界動向や職業観を学びます。

○地域を舞台にした課題研究

校外での取材活動や、地域と連携した販売実習を実施。地域課題の解決に挑むことで、実践的なビジネススキルと郷土愛を育みます。

4 グローバルな視点を養う「ビジネス・コミュニケーション」

商業×英語のコラボレーション。「ビジネス・コミュニケーション」の授業では、学習内容に英語が含まれています。商業科と英語科の教員がTTを行い、英語での電話応対や商談など、将来のビジネスシーンで即戦力となるスキルの育成を目指しています。

このように、石岡商業高校では、生徒の『知りたい』に応え、地域に貢献できる人材を育てます。